

<vol. 144 の記事>

- 問われる子どものスポーツ指導、スポーツ環境・・・・・・・・
- 子どものスポーツ支援プロジェクトの状況報告



注視すべきは体罰か？

大阪府桜宮高校の事件をきっかけに、体罰について大きな注目が集まっています。

国外に目を向けると、12月の下旬に、こんな事件も起きていました。クラブワールドカップ（CW）の黙とうでご存じの方もいらっしゃると思いますが、オランダの事件の記事を引用します。（産経新聞12/15より引用）

オランダ・アムステルダム近郊にあるのどかなサッカー場で悲劇が起こった。2-2で引き分けた試合後、プレーしていた数人の少年らが41歳の副審を取り囲む。突然、殴る蹴るの集団暴行を加え、死亡させた。

英紙インディペンデント（電子版）は「試合終了の笛が鳴った後、数人の選手がその副審に駆け寄って暴行を始めた。副審をグラウンドに押し倒し、頭部に乗ったり、腹部を蹴ったりしていた」とオランダのテレビ局がインタビューした目撃者の話を掲載。（一部省略）

副審は試合に出場していた選手の父親だった。ボランティアで息子の試合の副審を引き受け、被害に遭った。英紙テレグラフ（電子版）は「彼は息子のすべての試合や練習に付き添い、（審判として）チームに関われることを喜びとしていた」との人となりを紹介した。

集団暴行したのは反対のチームの選手らで、オランダの警察当局は3日に15歳と16歳の少年ら3人を逮捕。その後、逮捕者は続々と増え、計8人が拘束されたという。

事件を受け、国際サッカー連盟（FIFA）のブラッター会長は「サッカーは社会を映す鏡とも言え、残念ながら、同じ邪悪なものを抱えている。一方で、良い力もある。われわれはこのような事態を引き起こさないよう、その力を活用し続けていかなければならない」との緊急声明を発表。6日に行われたトヨタ・CWの開幕戦では、キックオフ前に黙祷も実施した。（後略）

彼らが、どのような指導を受けていたのかは定かではありませんし、スポーツ指導のあり方にその原因を求められるのかもわかりません。他の要因があったのかもわかりません。

しかし、子ども達が意見や気持ちを伝えるのに「暴力」と

いう行為に集団で及んだことは、きわめて深刻なことです。さて、次は、さいたま市内の話です。

ミニバスケットの市内大会の会場でのことです。

ゲーム中、一人ミスをした子がいました。同じようなミスを何度かしてしまったのか、あきらかにビビっているなあと素人ながらに見ていました。

と、ゲーム中に、監督が、その子をコートサイドまで呼び寄せます。

「なにやってるんだ！ なんで言っていることができない！ 負けたらお前のせいだぞ！ みんなこんなに頑張ってるのに！ わかってるのか！」・・・って延々とお説教というより、会場に響き渡るほどの怒声。指導には見えません。抽象的な言葉を叫んでいるだけ。

その間、チームは4人で試合してます。負けたら誰のせいだ？ と考えてしまいました。

これをみて、当たり前と思った方も、おかしいと感じた方も、両方いると思います。

体罰ではありませんが、この選手にとっての精神的なダメージはどれほどのものになるか、この子が、中学生になってもバスケットを続けようと思えるのか、楽しいと思えるのか・・・心配になりました。

このようなことは、試合の時だけではなく、日々の練習でも起きているに違いがありません。

子どものスポーツ指導の現場で起きているこれらのことは、以前から問題になることがあったと思いますが、いつになっても繰り返されているとも言えます。

特効薬のない、制度やルールを整えたところでなくすることはできない問題なのかもしれません。

だからといって、何もしないでいて良い訳ではありません。スポーツに関わる私たちが、それぞれの現場でできることをまずは考え、形にしていけることが必要です。

地域SCに関わる仲間の間では、いろいろな議論が交わされています。

例えば、

- ・「指導者を一人にはいけない」のかと思っています。独善を許してはいけないし、孤独にさせてもいけない。

そのためには、人的な確保が必要なので、すぐにできることではないとは思いますが、このようなシステムは結果的に多くの人を救い、成功に導けるものではないかと考えます。

- ・保護者は、指導者にモノを言いつらい雰囲気がある。顧問や監督の機嫌を損ねたら、子どもがつらくあたられるのではないかと・・・そんなことが多いと思う。
- ・年が若かろうと、経験が少なかろうと、真剣にむきあっているならば、それぞれの立場で考えがあるように思います。「ダメなものダメ」「おかしいんじゃないですか」「こう思います」と声に出すことがこれから益々必要かと思えます
- ・なんで親がだまってるか・・・ 文句を言ったら「じゃあ あんたがやればいいじゃない」と、最後はそれが一番怖い。できないもの 僕には、私には・・・となる。体罰の是非ではなく、指導論や指導方法でも同じような摩擦は起きると思うのです。

など、いろいろな意見が交わされています。

浦スポでも、対岸の火事と看過することなく、子どものスポーツについて考えていきたいと思えます。

1年半で190万円を超えました

—昨年8月から始めた「子どものスポーツ支援プロジェクト」。先月の支援金をあわせて、累計で1,913,265円になりました。

プロジェクトの事務局のNPOクラブネッツでは、これまでに、以下の14クラブに支援金を順次配布してきました。

岩手県

唐丹地区すぼこんクラブ（釜石市）

SUN陸リアススポーツクラブ（大船渡市）

宮城県

社団法人塩竈フットボールクラブ（塩釜市）

NPO法人石巻スポーツ振興サポートセンター（石巻市）

いしのまき総合スポーツクラブ（石巻市）

唐桑総合型地域クラブ（気仙沼市）

NPO法人なんでもエンジョイ面瀬クラブ<NEO>（気仙沼市）

NPO法人多賀城市民スポーツクラブ（多賀城市）

NPO法人アクアゆめクラブ（七ヶ浜町）

福島県

NPO法人はらまちクラブ（南相馬市）

ひのきスポーツクラブ（南会津町）

それぞれのクラブで子ども達の活動の再開などに使われてきました。

それぞれのクラブの様子などについても情報を集め、順次、浦スポニュースでも、皆さんにお伝えしていきたいと思えます。

ご存じの方も少なくないと思えますが、被災地の津波浸水地域では、いまだに土地利用が定まらず、高台の学校の校庭やスポーツ施設は仮設住宅が設置されているところ

が少なくありません。子どもの体力の低下、さらには、身体的成長の停滞などを懸念する声も出ています。

被災地では、これまで気分転換・元気づけを目的としたイベントの実施などが支援活動として多く実施され、支援金もそのような使われ方が多くみられました。

これからは、いかに日常を取り戻し、活動を定期的に行っていくために役に立つ支援のあり方を考えていく時期になってきたと思います。

浦スポでも、どんな支援をしていくのが良いのか、単にお金を送るだけが良いのかなど、検討しながら、新年度に取り組んでいきたいと思えます。

お詫び) 諸般の事情でVOL.143がモノクロ印刷となってしまいました。特に写真については、とても見にくかったと思いますので、今号で再掲させていただきます。

★マナーキッズ大使に選ばれた茂木君（左端）★



★フィットネス・フラ★



クラブからの情報発信ツール

■クラブニュース：過去のニュースはWEBに掲載

■facebook：<http://www.facebook.com/urawasc>
facebookでは、クラブの昔の写真を表しています。

■メルマガも配信始めました：
無料です。携帯からも簡単登録。



子どものスポーツ支援プロジェクト12月分は、

¥ 112,300

をプロジェクトに送金いたしました。ご協力ありがとうございます。引き続きよろしくお願ひします。



2012年度、浦和スポーツクラブは、総合型地域スポーツクラブ活動助成を受けて活動しています。